

物や歴史的景観等を描き出しており、かつて三田村氏が目で見、はだで感じたところを、リアルでしかも軽妙なタッチでしたためる。本年度で満八四歳を迎える長老としての貴重な体験から、戦前の明治から大正期におよぶ福井に特有な近代史を、はなはだ興味ぶかくしるした異色ある著作だといえよう。

(同)

三田村保正著 福井風物 明治・大正

本書は県下の刀剣鑑定家として著名な三田村保正氏が、毎日新聞(福井版)に昭和五年一月六日より五四年一月三〇日まで週一回、一〇〇回にわたって連載した「ふくい残像」を増補・改訂のうえ一本にまとめたものである。内容は一「福の井」からはじまり、二「時鐘楼」、三「劇場や寄席」、四「石の九十九橋」、五「日露戦争」、六「初期の外燈(中略)」九六「減税運動」、九七「夜店組合」、九八「納涼売店場」、九九「ロシヤ博覧会」、一〇〇「福井駅」に終る。それぞれ一ページに本文、右側のページに、その文にかかわる美しい墨絵を配し、明治・大正期の福井のさまざまな風

(限定版、三〇〇部。定価五、五〇〇円。領布先、福井市河増町三一の二七、三田村保正。福井市大手三一五、森八大名閣。)